

た はつ せい こう かしょう 多 発 性 硬 化 症

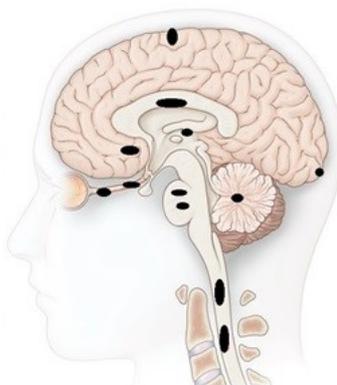
原因

■ご自身のリンパ球やマクロファージが中枢神経の白質*を貪食して脱髓*をおこす疾患です。

■脱髓が脳・脊髄・視神経のあちこちに多発するので(右図の黒丸)、様々な症状が出現します。

*白質: 脳や脊髄の脂肪が多く神経細胞が少ない部分

*脱髓: 神経の表面のさやの部分
が侵される

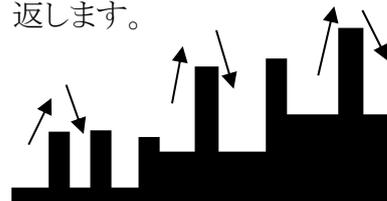


イラストは「ぜんぶわかる脳の事典 (2012)」より転載・改変

■ 遺伝素因、ウイルス感染、ビタミンD欠乏などが発症に関係しているようです。

■ 若い女性に多いです。

■ 症状は悪化と改善を繰り返します。



症状

■ 視神経障害の症状: 片目または両目の視力低下やかすみ目が出現することがある。

■ 脳や脊髄の障害の症状:

- モノが2つに見える、しゃべりづらい、三叉神経痛になる
- 手足が動かない、手足がしびれる、手足が痛い、手足がつっぱる
- 手足が震える、ふらつく、排泄がしづらい
- 気分が落ち込む、妙にハッピーになる

■ これらの症状が数週間続いたと思ったら、また同じ症状や別の症状で再発をします。

似たような症状をおこす病気

■ 脳梗塞や脳腫瘍は脳脊髄液検査(OCB や MBP の測定)で異常がありません。

■ 視神経脊髄炎は血液検査で抗アクアポリン-4 抗体が陽性です。

治療法

■ 病状が悪化したときは、ステロイドパルス療法や血液浄化療法(血漿交換など)を行います。

■ 病状が安定したあとは再発予防の治療をします。免疫修飾薬は赤ちゃんに影響が出たり、進行性多巣性白質脳症を合併しやすくなるものもありますので状態に応じて慎重に選択します。

- 内服薬: フィンゴリモド、ジメチル、シポニモド、アザチオプリン
- 注射薬: インターフェロン、グラチラマー、ナタリズマブ、オフアツマブ

■ 痛みやしびれやつっぱりや排尿困難があれば、それに応じたお薬やリハビリを処方します。

さいごにひとこと

■ 再発予防の免疫修飾薬は高額なものが多いため指定難病を申請することをお勧めします。

■ 入浴やお薬の中断で症状が悪化することがありますのでご注意ください。

みやさきクリニック 宮崎秀健